

# 北東アジア 非核兵器地帯へ

公開  
シンポジウム

地域安全保障への包括的アプローチ

2012年12月10日(月) 18:00-20:00  
明治学院大学白金校舎・本館 10階大会議場 入場無料

「核兵器に依存しない安全保障」に向けた枠組みとして、非核兵器地帯という構想が注目されて久しい。

私たちの住む北東アジアにおいても、実現に向けた努力が議員やNGOレベルで進んでいる。だがその一方で、朝鮮半島の非核化に向けた政府間協議である「6か国協議」は難航し、打開の道筋は見えていない。

こうした中、現在の困難を乗り越え、北東アジア非核兵器地帯を実現する新しいアプローチが模索されている。著名な国際政治学者であり、米朝交渉にも関与した元米政府高官のモートン・ハルペリン博士が提唱する北東アジア包括的安全保障協定構想もその一つである。

本シンポジウムでは、ハルペリン博士、日中韓や国連の専門家らとともに、包括的アプローチによる北東アジア非核兵器地帯実現の可能性を探ってゆきたい。

## プログラム (同時通訳付)

司会：稲見哲男(PNND日本事務局長)

### ■ 基調講演

モートン・H・ハルペリン

(オープン・ソサエティ財団上級顧問、元米大統領特別補佐官)

### ■ パネル討論

ピーター・ヘイズ(ノーチラス研究所所長)

李起豪(イ・キホ)(韓国・韓信大学 平和と公共性センター長)

張貴洪(チャン・グイホン)(中国・復旦大学国連・国際機関研究センター長)

ランディ・ライデル(国連軍縮局上級専門官)

アラン・ウェア(PNND グローバル・コーディネーター)

浜田昌良(参議院議員、PNND日本・北東アジア非核兵器地帯促進WT)

進行：梅林宏道(RECNAセンター長)

共催：核軍縮・不拡散議員連盟(PNND)・日本／核兵器廃絶長崎連絡協議会  
明治学院大学国際平和研究所(PRIME)／ノーチラス研究所  
長崎大学／長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

モートン・  
H・  
ハルペリン



オープン・ソサエティ財団上級顧問。国際政治学者。クリントン、ニクソン、ジョンソンの3人の米大統領の下で要職に就いた。クリントン政権では、国務省政策企画本部長(1998年-2001年)として米朝協議に指導的に関与。大統領特別補佐官及び国家安全保障会議民主主義担当上級部長(1994年-1996年)、国防総省長官及び副長官付諮問委員(1993年)。ニクソン政権では国家安全保障会議メンバー(1969年)。ジョンソン政権では国防次官補代理(1966年-1968年)を歴任。



### ■ お問い合わせ先

PNND 日本サポートグループ  
TEL:045-563-5101

RECNA  
TEL:095-819-2164

### ■ 会場へのアクセス

- 東京メトロ南北線、都営地下鉄三田線「白金台」駅、「白金高輪」駅徒歩7分
- JR「品川」駅、「目黒」駅からバス6分